

# 水資源

303-5

## 基本的な考え方・方針

ユニ・チャームが提供する商品やサービスの多くは衛生的な日常生活に欠かせない消費財です。同時に、当社の事業展開は、天然資源の利用や、廃棄物の発生など、地球環境と密接に関係しています。以上を踏まえて、当社の環境負荷低減への役割や責任は重大であり、また事業展開に比例して年々拡大していると考えています。

水利用については、生産拠点が所在する地域における状況を正しく理解し、限りある資源を有効活用しなければならないと考えています。また、使用量を毎年前年よりも1%削減する活動を推進しています。

## 水資源におけるリスクと機会

当社では事業、財務、戦略面での重大な影響のあるリスクを全社レベルでの被害想定額などから「資産の損害額が1億円以上、または業務復旧に100日以上かかると推定される重大なリスク(サプライチェーンの混乱による原材料の供給停止、製品の輸送停止、設備の破損による業務停止については、1週間以上供給が停止する事象も範囲に含む)」と定義しています。このリスクと水リスク評価を照らし合わせた結果、定義に当てはまるリスクは特定されていません。

水資源枯渇を遠因とする森林由来の原材料(紙・パルプ等)の供給不安定化による操業度低下を当社のリスクと捉えています。世界資源研究所(WRI)のツールであるアキダクト(Aqueduct Overall Water Risk map)を使用して中長期的な水リスクアセスメントを行い、特にリスクの高い河川流域で

操業するサプライヤーに対して、水資源管理を徹底しリスクの低減に努めるよう要請しています。

一方、当社商品は使用時や廃棄において水を使用しない点は機会であると考えており、ライフラインの整っていない渇水地域や被災地では当社の商品の強みが発揮されます。このような場面に積極的に関与することで購入を促す活動を推進していきます。

## マネジメント体制

当社は年4回、社長執行役員を委員長としたESG委員会で環境活動、品質課題、社会的課題やガバナンス上の重点課題について計画と進捗を共有しています。

## アキダクトによる水リスクの状況把握と対応

当社の水使用の状況は、自社としては①吸収体に使用する吸水紙の製造工程で約60%(該当工程においては90%の水循環を達成)、②パートナー・アニマル(ペット)フードの製造工程で約25%、その他の拠点については冷却水としての使用となっています(いずれも国内)。

①②の生産拠点については渇水による操業度低下は過去20年発生していません。

サプライチェーン全体でのLCA(Life Cycle Assessment)分析では原料調達の水利用が多くなっています。

これらの事業を継続する上での水資源の利用状態を、地域と連携して把握することが重要であると認識しています。今後

も、現状のリスク評価および将来のリスク調査の観点からアキダクトを使用して中長期的な水リスク分析と対応を進めていきます。現在、国内外40工場の水ストレスのスコアが「極めて高い」または「高い」6工場を特定しています。また、気候変動などの将来シナリオに基づいて、2040年の水ストレスのスコアが「極めて高い」または「高い」15工場を特定し、今後水リスクへの対応の必要性を認識しています。その対応のひとつとして、インドネシアの不織布を製造する工場では、使用水量の約7割を再利用する水循環を達成しており、排水量や排水品質(検査値)について自治体への報告を定期的に行っています。また、「水使用量の毎年1%以上削減」を目標に掲げて活動しています。

水使用量の多いパルプのサプライヤーには、水に関するリスクを共有し、管理の徹底を要請しています。

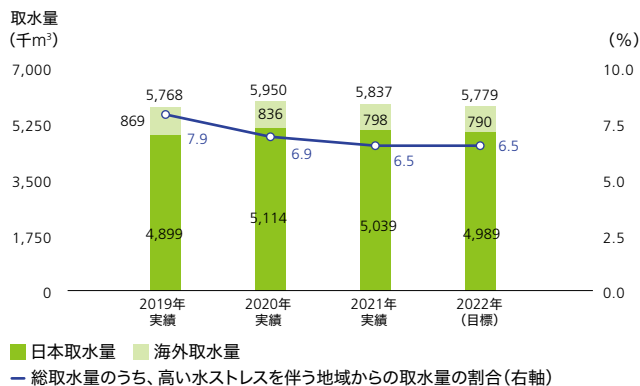
## 取り組み・実績

### 水使用量の削減

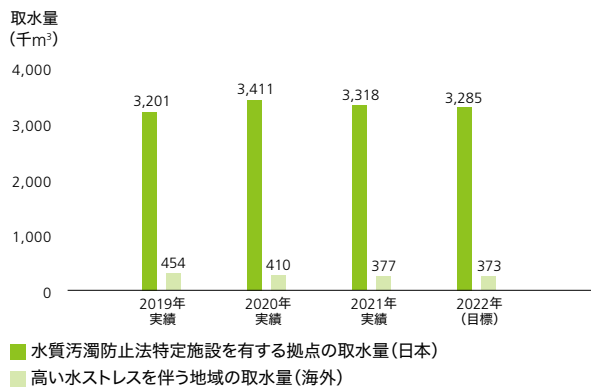
303-3

2021年は前年より使用量を約1.9%削減しました。引き続き、使用量の削減に取り組みます。

#### ▶ 取水量推移



#### ▶ 水質汚濁防止法特定施設を有する拠点の取水量(日本)、高い水ストレスを伴う地域の取水量(海外)



P.064 環境データ>水使用量(取水量)

### 水質・土壌汚染・悪臭

水質については定期的に自主基準・法規制への適合を評価しています。2021年は自主基準・法規制とも違反は発生していません。加えて、法規制で求められる行政への報告も該当工場適切に対応しています。また、土壌汚染、悪臭につながる事故も発生していません。

P.064 環境データ>水質・土壌汚染・悪臭(日本)

### 排水および水消費について

303-2,303-4

当社は、行政の定める排水処理基準を満たすために水質改善を目的とした三次処理を行い排水しています。

排水量の計測は一部拠点であり、全体の報告として取水量＝排水量＋消費量＋製品消費としています。排水は主に吸水紙製造工程とパートナー・アニマル(ペット)フード製造工程で発生しています。水消費については紙砂®製造工程と各工場冷却水の蒸発によるものです。

グループ全体での2021年の排水および蒸発は3,908千m³でした。

P.063 環境データ>排水量

### CDP※「ウォーター」評価

当社は国際的な非営利団体であるCDPから2021年の活動について「B」(マネジメントレベル)の評価を受けました。評価結果より課題を明確にし、より一層水資源に配慮した活動を推進していきます。



	2019年	2020年	2021年
ウォーター	B-	B-	B

※ グローバルに環境に関する調査実施、情報開示を行い、持続可能な社会の実現を図る国際NGO

P.050 気候変動(TCFDに基づく開示)>CDP「気候変動」評価

P.057 生物多様性>CDP「フォレスト」評価